

国際ロータリー第2770地区
第11グループ



川口 RC
Weekly Report

No. 13

● 定例会
第2914回

2019年10月17日配布

● 事務局
〒332-0012 川口市本町 1-18-5 NTTビル 1F
TEL 048-222-0124 FAX 048-222-0118
http://www.kawaguchi-rc.com
E-mail krc2770@plum.plala.or.jp



Topics & Information

●「もっと知ろうSDGs」セミナー 開催

卓話でお話下さいました河上伸之輔さんのセミナーが、13:50よりメディアセブンプレゼンテーションスタジオ(キュポラ7F)にてありました。



●ローターアクト

1. 清掃活動

10月6日10:00~12:00の間、川口駅周辺の清掃活動をしました。



2. 報告

第一四半期活動及び現状報告

標記の件につきましてご報告致します。

〈活動〉

令和元年6月に示した「2019年度RAC運営方針」に則り、社会奉仕活動の企画及び実施、企業訪問研修会の計画を行いました。なお、企業訪問研修会は11月23日(土)に実施することが決定しております。通常例会では、卓話の時間を討論会としても活用し、受身の姿勢だけでなく各々の知識や考えを発言の中で共有することで会員自身の成長を図っています。

〈運営〉

前年度の振り返りを行い、充実を図っております。達成できたものとしては「ローターアクトクラブ名義の口座開設」「会長印の作成」「広報担当の新設」などがあげられます。また、皆様のご理解を賜わり作成した名刺につきましても、他団体や他エリアのアクトクラブとの交流会などで活用させて頂きました。会員も積極的に挨拶へ向う姿勢が見受けられ、昨年度とは異なる一体感を感じることが出来ます。

〈今後について〉

第一四半期を振り返り、「持続可能な運営体制の構築=持続可能な活動」であると、改めてお伝えする必要があると感じております。ご承知頂いているように、大きな課題の一つが会員の拡充です。現在、手紙等を発信した際に確認できる受取者数が25名程に対し企業会員が20名程を占めています。その他数名が学生となります。それゆえ、運営幹部に就任される方も企業会員となり、ご自身の本業とアクトクラブの業務両立が物理的に困難な状況になっております。次年度以降もこのような内訳が続くのであれば、存続自体が大変難しい状況であります。次年度を含め今後アクトクラブを存続させる為には、ロータリアンの皆様の社員様をはじめご関係者様の参加、地元学生の参加など本業の中にアクトクラブの業務を織り交ぜ、アクトクラブの活動に意義を感じる事ができる環境にいらっしゃる方の参加が必要不可欠であり、同時に強くお願いする所存です。

次回予定

10月24日 世界ポリオデー
会場/川口駅デッキ
時間/18:00~19:00

次々回予定

10月31日 定例会
会場/そごう川口店ダリアルーム
点鐘/12:30

卓話: 蓮見孝子会員/岩井光竜会員

あいさつ

渡部 行光

本日は10月10日です。ちょうど55年前の1964年10月10日は東京オリンピックの開会式が行われた日でした。ちょうどその日に生まれた方がメンバーにいて、小倉克徳さんです。そのよしみで、今回の東京オリンピックの聖火ランナーに申し込んでいるとすることで、選ばれるのは狭き門ですが、もし選ばれた場合はクラブとしてもこぞって応援をしたいと思います。他にも聖火ランナーに申し込んだ方はいらっしゃいましたら、同様に応援しましょう。

さて、本日の卓話はSDGsの話ということで、私自身、この言葉を増井エレクトから言われるまで知らなかったのですが、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載されたもので、2016年から2030年までの国際目標のことなのですが、国際社会が抱える様々な課題を解決するための国際的な取り組みのことです。内容については、卓話でお話を聞くわけですが、さらに本日は、この卓話だけでなくSDGsのセミナーを卓話の後、13時50分からメディア・セブンで開催しますので、ぜひご参加の程お願いします。我々がこれからどこに向かって生きていくのかという指針が得られるのではないかと思います。

SDGsの基本的コンセプトは持続可能性ですが、それに続く大事な概念があります。それは多様性と包摂性ということです。ロータリーもこの持続可能性と多様性という言葉が最近よく使うようになりましたが、この間の国会の首相の所信表明演説で初めて多様性という言葉が使われたということですが、女性活躍とか外国人労働者の受け入れなどを考えると政府もこの多様性という概念に正面から向き合うことになるでしょう。多様性という言葉は包摂性という言葉とセットになって重要です。多様なものをどのようにまとめていくか、包摂するかです。いま、ラグビーワールドカップの日本チームの面々も、最初はかなり、違和感を感じるほど多様な人たちでした。強く勝ち進み、見慣れてくると、かなり肯定的な受け止め方になるわけですが、そして一人一人応援しなくなってくるわけで、考えてみると、スポーツの選手で活躍している人々には、混血の人たちも多く、多種多様です。テニスの大坂なおみ、バスケの八村塁、短距離のサニブラウンなど特別な才能の人たちはもともと特別な存在ですが、特別なない多種多様な職業の人たちあるいは職業を持たない人たちも含めて、いま日本で多種多様に生活しています。その人たちをどう我々の社会の中の存在として、包摂してゆか。これは日本だけでなく世界の中でその多様性を包摂できるかということでしょう。私たちの目線が、変わらなくてはいけないと思います。今更そのようなことを言うなというほど、私の目線は古いのかもかもしれません、われわれはまだまだ多様性のある社会を受け入れる意識でないのかもかもしれません。よほど自戒しなければなりません。

